

よみがえるアスファルト合材

大成ロテックのリサイクル技術

古くなった舗装を削り取り、新しいアスファルト舗装を施す。街でよく見かける工事風景ですが、そんな中にも、資源を有効活用し、環境にやさしい道路づくりを進める大成ロテックの技術が隠されています。

当社は、道路舗装のエキスパートであるとともに、アスファルト合材の製造・リサイクルメーカーでもあります。

東京ベイエリアの青海地区に独自の合材工場とリサイクルセンターを持ち、老朽化したアスファルト舗装は、この青海工場で処理され、新しい舗装としてよみがえります。

首都高速中央環状新宿線の工事にともない、山手通り(環状6号線)では、大幅な拡幅工事が行われており、大成ロテックはその一翼を担っています。

この施工現場を例にとり、どのようにアスファルト合材が再利用され、資源の有効活用が行われているかをご紹介します。



東京の大動脈の一つ、山手通り。大成ロテックの舗装技術は、首都の人と物の流通や安全に寄与しています。

01



道路表面の老朽化したアスファルト舗装を機械により短時間で取り除いていきます。

02



削り取られた廃材は、トラックに積み込まれ、リサイクルセンターに運ばれます。

03



最新鋭の機械が導入されている、東京青海合材工場及び東京リサイクルセンター。ここに道路廃材が運び込まれ、新たな舗装材料として生まれ変わります。

04



廃材がリサイクルセンターで再生され、アスファルト合材の一部として使用されます。

05



巨大なサイロが並ぶ青海の合材工場。廃材の一部を再利用して作られたアスファルト合材が、舗装現場へ運ばれていきます。

06



再生され、新たな舗装のために運ばれてきたアスファルト合材が、機械により短時間で敷き均されていきます。

07



ローラーによる転圧作業。後は路面に白線を引くなどの作業を行って完成です。

Column 地域の方々とのコミュニケーションを大切に

現場での仕事は、地域社会の一員としてコミュニケーションを図り、近隣の方々の理解やそれぞれの地域に見合った対応も求められます。近隣の方々への説明会、安全掲示板の設置、週末作業のお知らせ・ビラの配布なども、私たちの大切な仕事。施工現場の周辺には住宅街があり、多くの歩行者や自転車利用の方々もそばを通行します。この現場では、自転車の無料空気入れを設置し、地域の方々へのきめ細かい心配りやサービスに配慮しており、好評を得ています。



Before

施工前
交通量の多い都市部などは、路面が痛むのも早い。



施工後
合材のリサイクルによって道路もよみがえり、より安全な走行を可能にします。

